

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成 21 年 9 月】

■調査概要

- 調査期間：平成21年10月1日～10月16日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送によるアンケート調査
- 回収状況：建設業15企業、製造業22企業、卸売業16企業、小売業25企業、
飲食業18企業、サービス業（運輸、不動産仲介業を含む）44企業
合計企業140企業
- 調査項目：9月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価状況
向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index) 値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DIどちらもマイナス幅縮小

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(▲51.1)よりマイナス幅が10.4ポイント縮小して▲40.7となった。建設業、製造業、小売業、飲食業、サービス業でマイナス幅が縮小した。逆に卸売業ではマイナス幅が前月(▲47.3)より27.7ポイント拡大し、▲75.0となった。

○全産業合計の水準DIは、前月(▲51.1)よりマイナス幅が13.2ポイント縮小して▲37.9となった。建設業、製造業、小売業、飲食業、サービス業でマイナス幅が縮小した。逆に卸売業ではマイナス幅が前月(▲57.9)より4.6ポイント拡大し、▲62.5となった。

業況判断DI

	業況(前年同月比)				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	10.0 (3.5)	39.3 (41.8)	50.7 (54.6)	▲40.7 (▲51.1)	10.7 (7.1)	40.7 (34.8)	48.6 (58.2)	▲37.9 (▲51.1)
建設業	0.0 (6.7)	60.0 (40.0)	40.0 (53.3)	▲40.0 (▲46.6)	0.0 (6.7)	66.7 (40.0)	33.3 (53.3)	▲33.3 (▲46.6)
製造業	18.2 (4.8)	27.3 (23.8)	54.5 (71.4)	▲36.3 (▲66.6)	18.2 (9.5)	22.7 (23.8)	59.1 (66.7)	▲40.9 (▲57.2)
卸売業	0.0 (5.3)	25.0 (42.1)	75.0 (52.6)	▲75.0 (▲47.3)	0.0 (0.0)	37.5 (42.1)	62.5 (57.9)	▲62.5 (▲57.9)
小売業	8.0 (3.7)	44.0 (51.9)	48.0 (44.4)	▲40.0 (▲40.7)	8.0 (7.4)	40.0 (25.9)	52.0 (66.7)	▲44.0 (▲59.3)
飲食業	22.2 (0.0)	33.3 (56.3)	44.4 (43.8)	▲22.2 (▲43.8)	27.8 (18.8)	33.3 (50.0)	38.9 (31.3)	▲11.1 (▲12.5)
サービス業	9.1 (2.3)	43.2 (39.5)	47.7 (58.1)	▲38.6 (▲55.8)	9.1 (4.7)	45.5 (34.9)	45.5 (60.5)	▲36.4 (▲55.8)

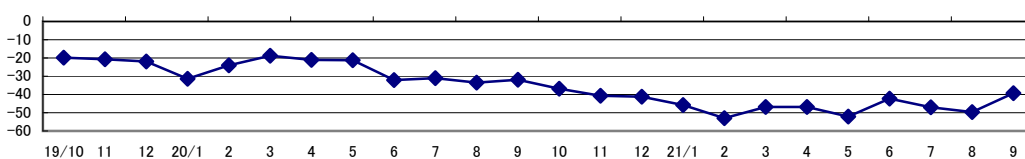
()内は前月データ

2. 売上高DI(前年同月比)

○全産業合計の売上高DIは、前月(▲49.6)よりマイナス幅が10.3ポイント縮小して▲39.3となった。

○業種別に見ると、建設業、製造業、飲食業、サービス業でマイナス幅が縮小し、逆に卸売業、小売業でマイナス幅が拡大した。

売上高DI(全産業・前年同月比)の推移



【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

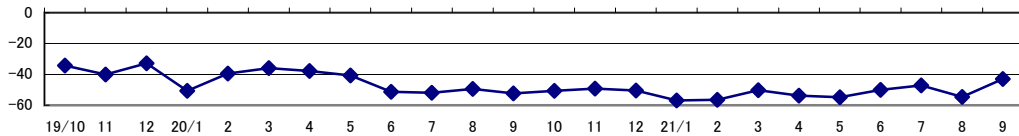
	20年10月	11月	12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
全 体	▲ 36.9	▲ 40.7	▲ 41.3	▲ 45.8	▲ 41.5	▲ 46.8	▲ 46.9	▲ 52.1	▲ 42.2	▲ 47.1	▲ 49.6	▲ 39.3
建設業	▲ 33.3	▲ 47.1	▲ 44.4	▲ 61.1	▲ 36.8	▲ 47.4	▲ 50.0	▲ 29.4	▲ 27.8	▲ 26.3	▲ 46.7	▲ 40.0
製造業	▲ 65.4	▲ 45.8	▲ 44.0	▲ 56.0	▲ 52.2	▲ 54.6	▲ 40.9	▲ 70.8	▲ 58.3	▲ 55.0	▲ 61.9	▲ 36.3
卸売業	▲ 42.1	▲ 70.6	▲ 56.2	▲ 55.5	▲ 73.7	▲ 68.4	▲ 57.9	▲ 70.0	▲ 64.7	▲ 61.1	▲ 52.6	▲ 75.0
小売業	▲ 44.0	▲ 32.1	▲ 34.7	▲ 31.0	▲ 32.0	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 57.7	▲ 19.3	▲ 34.6	▲ 37.0	▲ 48.0
飲食業	▲ 33.3	▲ 42.0	▲ 66.7	▲ 57.9	▲ 35.3	▲ 53.3	▲ 43.8	▲ 47.0	▲ 68.8	▲ 47.1	▲ 50.0	▲ 22.2
サービス業	▲ 17.4	▲ 28.9	▲ 28.9	▲ 34.8	▲ 31.8	▲ 37.5	▲ 47.7	▲ 40.5	▲ 34.1	▲ 55.0	▲ 51.2	▲ 29.5

3. 営業利益DI(前年同月比)

○全産業合計の営業利益DIは、前月(▲54.6)よりマイナス幅が11.7ポイント縮小し▲42.9ポイントとなった。

○業種別に見ると、建設業は同水準であったが、それ以外ではマイナス幅が縮小した。

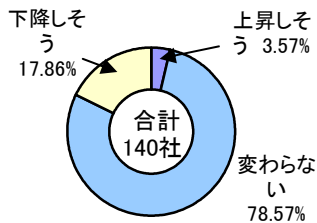
営業利益DI(全産業・前年同月比)の推移



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	20年10月	11月	12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
全 体	▲ 50.7	▲ 49.3	▲ 50.4	▲ 56.8	▲ 56.4	▲ 50.3	▲ 53.8	▲ 54.8	▲ 50.0	▲ 47.1	▲ 54.6	▲ 42.9
建設業	▲ 66.6	▲ 64.7	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 52.7	▲ 57.9	▲ 77.8	▲ 58.8	▲ 44.4	▲ 31.5	▲ 53.3	▲ 53.3
製造業	▲ 61.5	▲ 66.6	▲ 64.0	▲ 72.0	▲ 65.2	▲ 59.1	▲ 54.6	▲ 58.3	▲ 70.8	▲ 60.0	▲ 66.7	▲ 40.9
卸売業	▲ 63.1	▲ 76.5	▲ 62.5	▲ 61.1	▲ 73.6	▲ 57.9	▲ 68.4	▲ 75.0	▲ 70.6	▲ 50.0	▲ 68.4	▲ 56.2
小売業	▲ 53.9	▲ 42.9	▲ 34.6	▲ 38.0	▲ 36.0	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 61.5	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 40.8	▲ 40.0
飲食業	▲ 47.0	▲ 52.6	▲ 80.0	▲ 63.1	▲ 70.6	▲ 66.7	▲ 43.8	▲ 47.0	▲ 68.8	▲ 52.9	▲ 43.8	▲ 33.4
サービス業	▲ 32.6	▲ 26.7	▲ 37.8	▲ 45.6	▲ 52.3	▲ 42.5	▲ 47.8	▲ 40.5	▲ 39.0	▲ 52.5	▲ 55.8	▲ 40.9

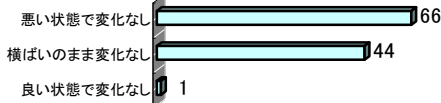
向こう3ヶ月の見通し



平成21年10月～12月の見通しは「上昇しそう」が前月調査に比べ2.81ポイント縮小し3.57%。「下降しそう」は3.68ポイント拡大し17.86%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲13.3)、製造業(4.5)、卸売業(▲18.8)、小売業(▲16.0)、飲食業(▲22.2)、サービス業(▲13.6)であった。

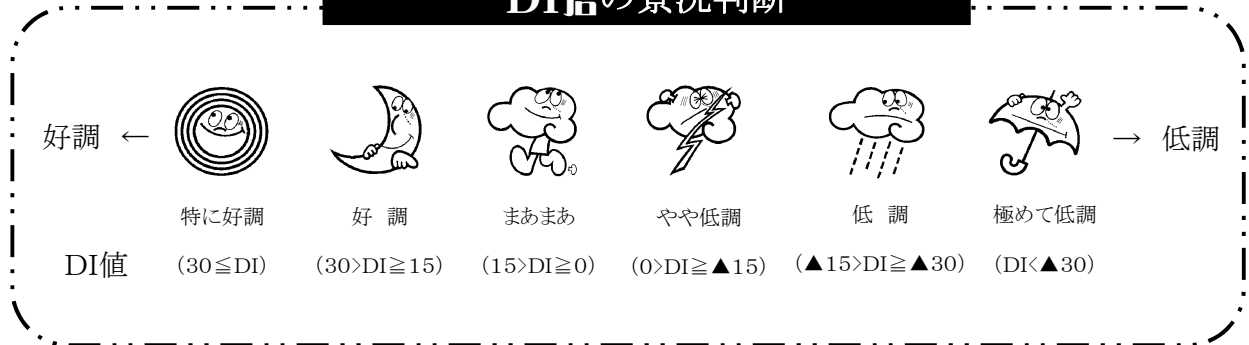
➡上昇しそうでは、「関東地域の受注が増えてきた」(鉄工)、「年末に向けての受注が始まる」(製本)、「需要期に入るため客数が増加する」(布団)、「経費削減や新たな取り組みを実行」(学習教室)

➡下降しそうでは、「公共事業の予算縮小」(土木工事)、「受注の落ち込み」(菓子)、「目立った物件や引き合いがない」(管工機材)、「前年に比べ販売単価が下回りそうである」(青果)、「不況の影響でスキー客が減る見込み」(ペンション)といった声が寄せられた。



業種別景況

DI君の景況判断



1、建設業



【項目別DIの推移】

	20年9月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	▲13.3	▲33.3	▲47.1	▲44.4	▲61.1	▲42.1	▲47.4	▲50.0	▲29.4	▲27.8	▲26.3	▲46.7	▲40.0
受注量	▲26.6	▲33.3	▲47.1	▲44.4	▲61.1	▲42.1	▲52.6	▲55.5	▲47.0	▲38.9	▲33.3	▲60.0	▲42.9
受注単価	▲46.7	▲55.5	▲64.7	▲50.0	▲61.1	▲73.7	▲57.9	▲77.8	▲29.4	▲55.6	▲44.4	▲46.7	▲42.9
営業利益	▲60.0	▲66.6	▲64.7	▲50.0	▲83.3	▲52.7	▲57.9	▲77.8	▲58.8	▲44.4	▲31.5	▲53.3	▲53.3
見通し	▲26.7	▲16.7	0.0	▲16.7	▲27.8	▲5.2	▲21.0	▲5.5	▲17.6	11.1	▲10.5	▲13.3	▲13.3

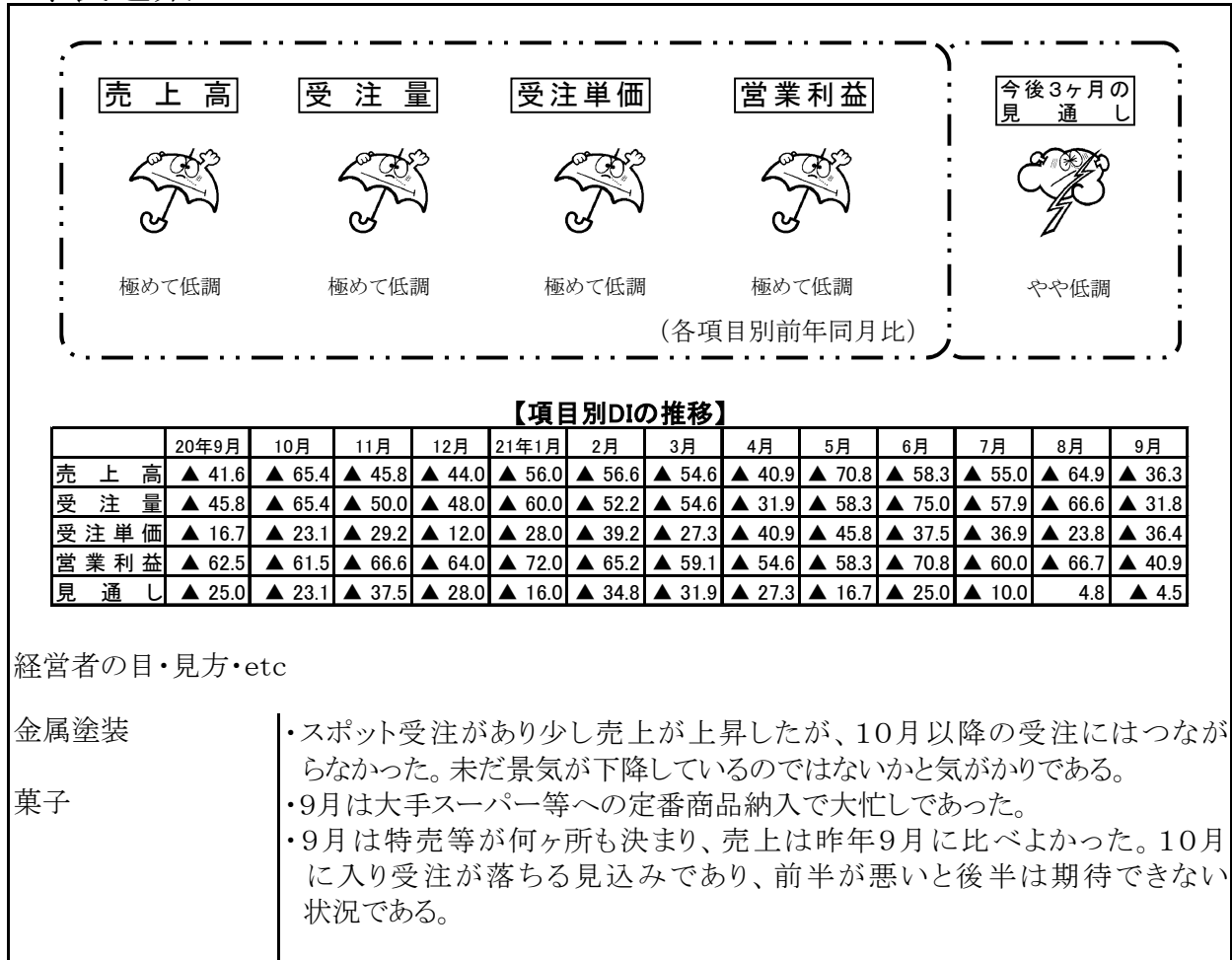
経営者の目・見方・etc

電気工事
管工事
土木工事

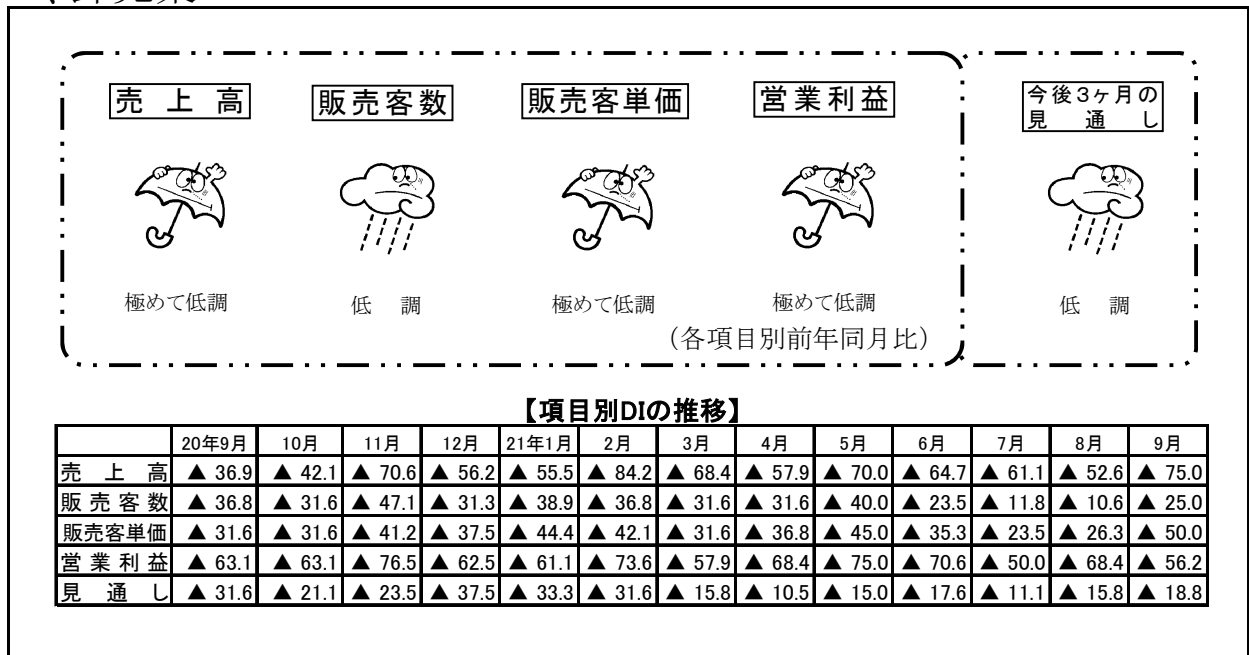
鉄工

- ・一部を除き仕事が無い日が続いていて今後の見通しが立たない。
- ・年末までは横ばいに推移する予想だが1月から落ち込む見込み。
- ・政権交代後の国の公共事業の大幅削減や補正予算の全面見直し等、悪いニュースばかりであり、地方もその煽りを受けるのではないかと。今後本格的に淘汰されるところがあると予想する。
- ・政権交代が実現し人心一新と行きたいところだが、建設物件の差し止めが相次ぎ、また東京オリンピックも実現しなかったりと明るい材料が見当たらない。苦しい時期が続くそうである。
- ・政権交代によりダム建設や箱物建設事業の廃止で、建設業は益々悪くなる見込み。

2、製造業



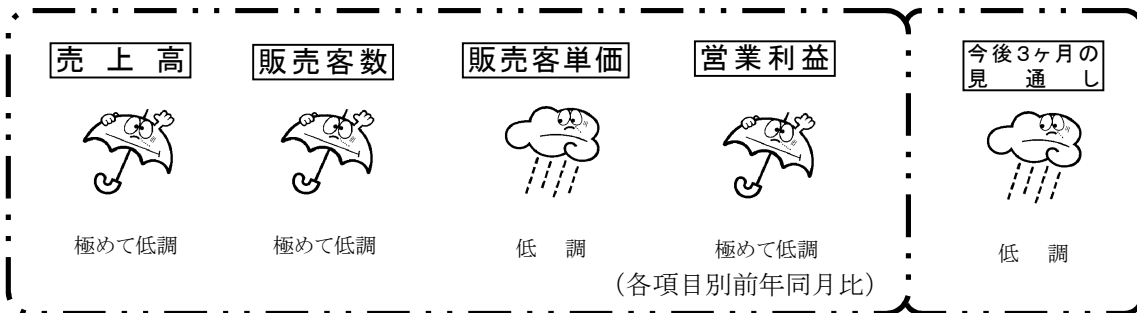
3、卸売業



経営者の目・見方・etc

電設資材	<ul style="list-style-type: none"> ・前年比90%と相変わらず景気後退のまま、各業界共全般に設備投資がない。また公共投資も新内閣になっても期待はできない。 ・相変わらず地元物件が乏しい。市況も横バイのまま動きなし。 ・設備投資が下降のまま横バイ状況。上昇の話はない。 ・仕事が無い中であって、仕事が出てきても中国並みの単価を提示され先行きは見通しが見つからない状況である。 ・補正予算の見直しに伴い公共工事が減るとの見通しから、関連する金属製品の取り扱いが徐々に鈍くなってきている。家電リサイクルの規制が緩和され製造メーカーによるグループ分けがなくなる。 ・新築物件が少ない為、売上げは不振。またリフォーム案件をアップして頑張っているが利益に結びつかない。 ・山岳観光が終わる10月に期待したが、土日以外はめっきり悪くなりそうな気配だ。お金を使ってもらえるのはコンビニだけなので、土産品店は大変厳しい。 ・今年は8月下旬から9月にかけて雨が少なく乾燥傾向にあったため、野菜の出荷量が多めに調整する事態となり、単価安から前年比85%で終了。合わせて松茸を含むキノコ類がほとんど入荷がなく厳しい販売。果実はリンゴが105%と好調であったが、梨関係が入荷で76%と下回り全体で95%、会社全体では前年比90%で終了した。
鋼材	
機械工具	
機械部品	
金属製品	
木材・建材	
土産品	
青果	

4、小売業



【項目別DIの推移】

	20年9月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	▲ 28.0	▲ 44.0	▲ 32.1	▲ 34.7	▲ 31.0	▲ 36.0	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 57.7	▲ 19.3	▲ 34.6	▲ 37.0	▲ 48.0
販売客数	▲ 24.0	▲ 46.1	▲ 46.4	▲ 50.0	▲ 34.5	▲ 48.0	▲ 34.6	▲ 38.5	▲ 61.5	▲ 34.7	▲ 28.0	▲ 33.3	▲ 36.0
販売客単価	▲ 24.0	▲ 42.4	▲ 21.4	▲ 26.9	▲ 24.1	▲ 40.0	▲ 27.0	▲ 30.8	▲ 42.3	▲ 23.1	▲ 24.0	▲ 22.2	▲ 24.0
営業利益	▲ 40.0	▲ 53.9	▲ 42.9	▲ 34.6	▲ 38.0	▲ 36.0	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 61.5	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 40.8	▲ 40.0
見通し	▲ 8.0	▲ 19.3	▲ 21.4	▲ 38.5	▲ 10.4	4.0	▲ 3.9	▲ 15.4	▲ 26.9	▲ 3.9	▲ 7.7	▲ 14.8	▲ 16.0

経営者の目・見方・etc

住宅機器	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ、エコといったキーワードの商品が前年より多く売れてきている。 ・店での対応にも限界があり県や市などで、我々庶民にももっと有効な施策を打ち出してもらえよう、願いたいものだ。 ・秋の大型連休のみならず週末は多くの観光客が街中を巡っていたように見受ける。 ・前年対比は横バイの状態で売り上げはなかなか上昇しない。個人消費が上向きになるよう働きかけたい。 ・買い物に来る客で松本の伝統について熱心に説明を聞いて満足して帰る客が増えてきた。客から励まされ重みを感じながら頑張りたい。
物産	
印章	
書籍	
手芸材料	

化粧品	・低価格志向で物の価値がわからない人が増えれば、今後どんな影響が出るか予測ができない。
生花	・シルバーウィーク中の松本城周辺は大渋滞で商売にならなかった。また上水道管改良工事が今月より始まり、来年1月まで行われ大変な年末になりそうな予想。
布団	・共同仕入れなどにより経費節減等に努め、何とか踏ん張っている。

5、飲食業



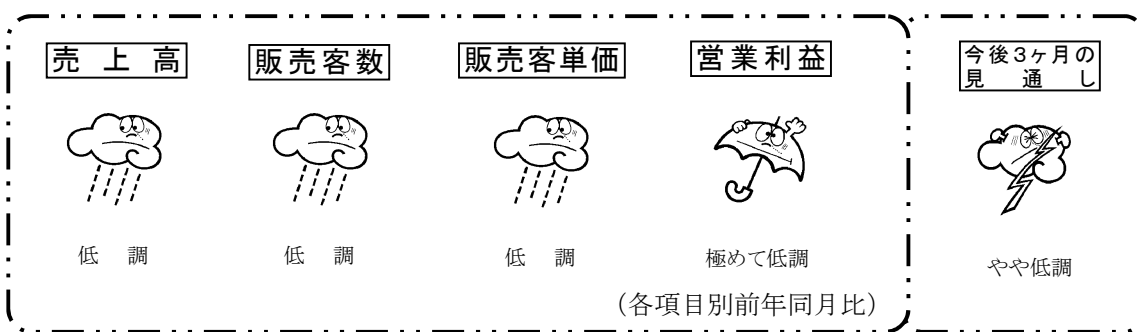
【項目別DIの推移】

	20年9月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 42.0	▲ 66.7	▲ 57.9	▲ 70.6	▲ 53.3	▲ 43.8	▲ 47.0	▲ 68.8	▲ 47.1	▲ 50.0	▲ 22.2
販売客数	▲ 38.9	▲ 38.9	▲ 47.3	▲ 60.0	▲ 63.1	▲ 70.6	▲ 60.0	▲ 31.2	▲ 29.5	▲ 68.8	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 22.2
販売客単価	▲ 50.0	▲ 27.8	▲ 31.6	▲ 46.7	▲ 52.6	▲ 58.8	▲ 53.3	▲ 56.3	▲ 29.4	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 31.3	▲ 11.1
営業利益	▲ 72.2	▲ 47.0	▲ 52.6	▲ 80.0	▲ 63.1	▲ 70.6	▲ 66.7	▲ 43.8	▲ 47.0	▲ 68.8	▲ 52.9	▲ 43.8	▲ 33.4
見通し	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 31.6	▲ 40.0	▲ 26.3	▲ 5.9	6.7	▲ 6.2	▲ 5.9	0.0	0.0	▲ 12.5	▲ 22.2

経営者の目・見方・etc

カレー	・サイトウキネンのコンサートなどがあり、活気もあった。後半は寒かったり天気の変化したりであまり人出がなかった。
中華料理	・11月終わりから12月に何とか景気が良くなるように祈りたい。どのような形でも多くの人が出歩くようにしてもらいたいものだ。
郷土料理 料理	・シルバーウィークでの観光客数の増加で売上は上昇となった。 ・遠方の旅行者の方に色々聞かれたりすると、信号の名前や市内を走るバスの時間など知らないことが多い。旅行者の立場で考えると、市内の案内をすることもサービスの一環だと考える。
寿司	・秋の大型連休は初めてであったが、9月という事もあり、春のゴールデンウィークやお盆のような盛況とはならなかった。ETC1,000円後から連休は観光地近くの店舗で多くの集客を見込める一方、地域色の強い郊外店舗は苦戦といった状況が続いている。 ・6月に発行されたプレミアム商品券の有効期限も今月で終了した。「プレミアム商品券のおかげ」という部分の影響は大きいものがあったように思う。このような企画が今後あれば積極的に参加したい。民主党政権に変わり今後、景気が上昇する事を大いに期待したい。
そば	・全般的には暇な月であったが、シルバーウィークは5月の連休並みの人出があり、予想外の売上となった。
仕出し料理	・シルバーウィーク中に各町会で例年通りの行事が行われた。今年は長期休みとなり行事を早く済ませるところもあった。高速道路1,000円効果で県外車を多く見かけたが、平日の街は相変わらず人出が少ない。

6、サービス業



【項目別DIの推移】

	20年9月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	▲30.4	▲17.4	▲28.9	▲28.9	▲34.8	▲45.4	▲37.5	▲47.7	▲40.5	▲34.1	▲55.0	▲54.2	▲29.5
販売客数	▲41.4	▲21.7	▲33.3	▲28.9	▲26.1	▲47.7	▲35.0	▲38.6	▲47.7	▲41.4	▲45.0	▲44.2	▲27.3
販売客単価	▲28.3	▲17.4	▲26.7	▲33.4	▲28.3	▲31.9	▲35.0	▲43.2	▲31.0	▲24.4	▲35.0	▲30.2	▲27.2
営業利益	▲39.2	▲32.6	▲26.7	▲37.8	▲45.6	▲52.3	▲42.5	▲47.8	▲40.5	▲39.0	▲52.5	▲55.8	▲40.9
見通し	▲23.9	▲15.2	▲22.3	▲33.4	▲23.9	▲18.2	▲10.0	▲9.1	▲9.5	▲4.9	▲5.0	▲2.4	▲13.6

経営者の目・見方・etc

機械設計

- 生産設備の増設はまだまだだが、安全面を考慮した装置の置き換えが出てきている。その他の装置関係も少しだが出てきた。

土木設計

- 新築住宅に係る登記の受注件数が引き続き低い状態にある。

自動車整備

- 夏も短くいつもの人の流れはなかったように思う。冬も間近になって、昨年のように雪が降らなければ、商売も落ち込む可能性は高い。四季がなくなりつつあるようにも思え、すべてが冷え込んでしまうような景気である。

温泉旅館

- シルバーウィークの人出は予想以上で、大渋滞が発生し到着が遅くなるお客様が多かった。連日満室が続き売上は良かった。
- 例年通りの宿泊人員であるが、低価格なので売り上げが上がらない。
- シルバーウィークなどがあり一息ついたところ。今後の大きなイベントで賑わうことを期待する。今年の紅葉はよさそうなので、観光客が多いことを願う。
- シルバーウィーク時の客の動きは活発であったものの、それ以外の日は動きが極端に悪かった。8月以降、例年に比べ客の動向が違っていると感じる。

旅館

- 天候の予想が不確実とインフルエンザの影響、また新内閣の緊縮政策により下降の予想。

ペンション

- 8月に比べると9月はシルバーウィークの5連休と民主党への政権となり、お手盛りサービスの先行きを期待して、希望的、楽天的経済への消費者意識からか、かなりの人出があった一ヶ月であった。10月は紅葉と3連休があり、期待したいが予約が入らず不安を抱える。

タクシー

- 輸送人員、売上高は相変わらず前年を割り込んでいるが、9月の落ち込み幅は小さかった。9月はLPガスの値動きはなかったが、10月から値上げになる。

旅行斡旋

- シルバーウィークは天候にも恵まれ、市内の至る所で賑わいが見られ活況であった。日本航空が路線廃止を検討している国内空港に信州まつもと空港が含まれていたのには衝撃を受けた。長年、仕事に観光に慣れ親しんできただけに存続が望まれる。

- JALの信州まつもと空港からの撤退は観光立県を目指す長野県にとっては大変な危機である。何としても撤退を阻止し、山岳空港の弱点を解消すべく空港整備をして、将来国際線も含め路線拡大ができるよう万全を尽くすことが肝要である。

情報関連サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設も格差が出てきており、継続困難な事業所もあり、その影響でパソコン等の買い替えも先延ばしとなっている。一部に上向きの動きは出てきてパート従業員を採用しているものの、雇用条件は厳しくしているようである。 ・億単位の負債を抱えた倒産状況が最近報道をにぎわせているが、関与先は同業種でも実績の明暗がハッキリ分かれている。特に今月の申告の中で建築業を営むある業者は、受注の見通しは不安定で、予想もつかないことを踏まえて一年一年変動費や固定費の支出には慎重に対応してきたことが功を奏して、設立以来最高の業績と納税に至った。従業員、下請け、外注先の人材に恵まれ安定していることと、経営者の人柄、経営理念の固さがこのような業績を作り上げている。 ・民主党への政権交代で国家予算等の見直し等、全てにおいて方向性が見えるまでは景気は悪い状態で、しばらくは続きそうだ。現状は大変厳しいものである。 ・長引く不況により、競合同士の争いが激しくなっている。 ・多くの会社で新規事業を始めていると聞く。既存の事業を維持しながら新しいものに挑戦する姿勢に関心する。 ・秋から冬にかけて毎年客足が遠のくので、ある程度予想はしている。 ・シルバーウィーク中の客の動きがどうしてもレジャー方向になってしまう。また山間部では稲刈り等の作業になってしまい、誘客に際しては難しい面もある。 ・インフルエンザの流行もあり、美容室のような人の出入りがある所は衛生管理の面が問われる。客にも消毒用アルコールジェル等を来店時に使ってもらおうよう周知していく。
税理士	
ビル・住宅総合メンテナンス	
コンサルタント	
倉庫	
マッサージ	
理容	
美容	